
第 1 回 昭島市総合基本計画審議会 第 1 部会

議 事 要 旨

〔日 時〕平成 22 年 2 月 10 日（水）19:00～20:30

〔場 所〕昭島市役所 3 階 庁議室

〔出 席 者〕

1 委員

松本芳之部会長、小川仁副部会長、井ヶ田博委員、大田眞也委員、小野正敏委員、小林和子委員、中村圭子委員、平石正美委員、福崎誠委員

（欠席者）國井俊彦委員

2 事務局

日下企画部長、佐藤総合基本計画担当主幹、別所主査

3 コンサルタント会社

田中

〔日 程〕

1 正副部会長の選出について

2 基本計画素案（各論部分）

第 1 章 心ゆきかう あきしま（明るい地域社会の形成）について

（1）コミュニティ

（2）男女共同参画社会

（3）国際化

（4）情報化

（5）防災

（6）防犯

（7）交通安全

3 その他

〔配布資料〕

・第 1 回昭島市総合基本計画審議会第 1 部会日程

・資料 1 第 1 章 心ゆきかう あきしま（明るい地域社会の形成）

〔議事要旨〕

1 正副部会長の選出について

委員の互選により、部会長に松本委員を、副部会長に小川副委員長を選出することに決定

2 基本計画素案（各論部分）

【説明】

事務局より、資料1「第1章 心ゆきかう あきしま（明るい地域社会の形成）」に基づき説明があった。

【修正箇所】

- ・11 ページ防災、現状と課題の1行目「市役所本庁」を「市役所本庁舎」に訂正。
- ・14 ページ政策指標、欄外※1が削除。※2を※1に訂正。政策指標の現状値も※2を※1に訂正。

【質疑応答・意見】

（1）施策体系図・コミュニティ

■前回の計画にはない「施策の目指す姿」という形ですっきりしたので、通りが良くなったと思う。【福崎委員】

■前回の計画にはなかった館林市との件が出てきているが、この10年間で何か締結がされたということか。【松本部会長】

○前回の計画策定時においても、近隣自治体とは災害発生時の応援協定を締結していた。その後、大規模な災害への対応から、若干距離のある地域との協定締結に取り組み、館林市と相互応援協定を締結したものである。【事務局】

■アダプト制度の意味が分からない。【中村委員】

○市民の力で美化活動を行っていくことを市が応援していく施策の一つで、公園や道路などの清掃、美化活動を市民のボランティアにより、市民との協働の形で行う制度である。なお、巻末に用語解説を付けたい。【事務局】

■アダプト制度のボランティア活動への支援について、「市民がボランティア活動をお願いしたいと思ったときの情報活動に努めます」という丁寧な表現ではなく「市民がボランティアを依頼したいと思ったときの情報提供に努めます」という表現の方が良いのではないか。【小林委員】

○修正させていただく。【事務局】

■コミュニティで、「拠点として公共施設の有効活用をはかる」と書いてあるが、小中学校の空き教室の活用を是非入れていただきたい。積極的に進めていくことを書くのはどうか。【小野委員】

○小中学校の空き教室が既存施設の有効活用の対象であることはご指摘のとおりである。この点については、教育委員会とコミュニティの担当を含めながら検討を進めているところだが、学校の安全確保のため、不特定多数の人が入る状況がなかなかつくりづらいという側面がある。ただし、小中学校でも地元との関わりが教育上、大変重要であるという認識があり、お互いに協力しながら、有効活用を進めていく、現時点ではこのような対応となっており、担当との調整の結果、このような書き込みになった。【事務局】

- 揖島第三小学校のように、耐震化や校舎の改築、増築などの際に地域に開放できる形につくり変えているときには、市民も使えますが、そうした機会でもないと思う。【小林委員】
- ご指摘の通り、そのような配慮も検討しなければいけない。次の章の教育の部分で、学校施設をどのようにしていくのか、方向性の記述も含まれるよう調整させていただく。【事務局】
- 地域活動に参加している市民の割合があるが、かなり性差があって女性の方がたぶん高いと思う。性別での参加率が変わるのではないかな。【松本部会長】
- 男女別については、ほぼ同じである。10代はほとんど参加していないが、歳をとるに従って参加していく傾向がある。【事務局】
- 地域活動で一番困っているのは、婦人と高齢者の方で、現役の方の参加がない。何か秘策を考えなければいけない。【小野委員】
- ご指摘の部分については、コミュニティの担当も強く感じている点で、現役で活動後、地域に戻って地域活動することが、ひとつの生きがいにもなる、こういった側面もある。解決に向けてどのようなアプローチをしていくか模索中であり、なかなか解決に結びつかないところであるが、今後とも市として取り組んでいく。【事務局】
- 自治体の運動会では、壮年の現役の方も子どもがいるから参加したり、子どものいない方も参加しているので地域がまとまる。現役を引退した方が地域に貢献し、地域に戻ってきてくようにするには、地域に目が向くような自治会の運動会や市の行事などに参加してもらい、継続的な地道な息の長い活動を行い、地域がまとまっていければと思う。【小林委員】
- 現状と課題の5項目、「市民の選択と責任」を抜き「市民との協働を尊重し」という言い方であってもいいのではないかな。この文章の意味を教えて欲しい。【井ヶ田委員】
- 前回の審議会でも、責任という言葉が一人歩きしている、というご指摘もありましたので、表現については配慮してきたところですが、市民側もきちんと考えて選択をして行動していく、それが地域の充実につながっていく、という考え方である。【事務局】
- 市民側も都合が悪くなるとボランティアだからと逃げるわけなので、言葉は取り方によってはだいぶ変わって来ると思う。【井ヶ田委員】

(2) 男女共同参画社会 特になし

(3) 国際化

- 英語版のホームページ開設について、英語ができない人の方が多いと思うがどういう趣旨なのか。目標値としてのアクセス数は、どういう層を想定しているのか。【松本部会長】
- ホームページの英語版は、外国語で情報を提供していく、リーディングケースとして取り組むものである。対象は昭島に暮らしている方、関心を持っている方、観光で訪れる方に情報を提供していくことを考えている。
- アクセス件数は、東京都内の市で英語版を開設しているところは年間9,000件程度と聞いている。最終的な目標は10,000件と考えている。【事務局】

■基本施策 ①国際化の推進、Aの「次代を担う児童や制度が広い視野を持ち～」とあるが、これは学校の中で国際理解教育をする場を持つことか、学校以外でそのような場を持っていたりするのか、どのような方向で考えているのか。【中村委員】

○教育の方向性について他の計画でまとめており、学校教育において小学生から英語が始まるので、国際理解教育をすると共に、外国語のコミュニケーション能力を高めていこう、ということの一つの柱と位置づけている。学校の中でも国際理解教育能力を身につけ、学校以外でも全体的な生涯教育でも取り組んでいきたいと考えている。【事務局】

○文科省も小学生の英語に力を入れようと方向性を示しているので、平成 22 年予算の中でもグローバル世界に向け、小学生の短期間の英語体験の授業を相当数行かせようと考えている。中学生についても海外派遣をかなり長期間で行っている。これからの時代は、国際理解は重要で、大切にしていかなければならない施策だろうと考えている。【事務局】

■他市では、学校での英語教育や外国語教室の他に、ICU の学生に来てもらってコミュニケーションをとったりもしている。言葉だけでなく、人と人とのコミュニケーションとして国際理解教育をするなど、学校を主に、学生に来ていただいて教えてもらうこともやっている。【小林委員】

○生徒や児童が外国語に触れたり、文化などに触れる機会を幅広く増やしていく、という形で実際に進んでいくと考えている。【事務局】

(4) 情報化

■地域情報化という言葉が出てくるが、これはどういうイメージなのか。【小野委員】

○個別計画を担当課で検討しているところで、地域全体の情報の提供、インターネットを利用したコミュニティで地域のつながりを広げ、いわゆる横のつながりが広がっていくようなイメージを持っている。地域の活動の情報、求めている応援などに幅広くアクセスすることが可能となり、地域の活動がより充実していくといった方向性を持ちながら、基礎となるベースを行政がつくっていく。地域情報化の一つの柱として考えている。【事務局】

■ネット犯罪に関しては、市民を守るためには情報化の中にあるべきではないのか。そのへんはどこに盛り込まれるのか。【井ヶ田委員】

○ネット犯罪等については、産業の活性化のなかに消費者活動という項目があり、そこで触れる予定である。

ご指摘のとおり安全・安心という面でも取り入れていく部分があるので、調整していきたい。

【事務局】

■住民基本台帳カードがつくられ、セキュリティーナンバーを日本も取り入れようと進んでいるが、この 10 年間では入ってこないのか。【小野委員】

○現政権では、納税者番号を含めたデジタル化に向けた取り組みを検討はしているようだが、個人情報保護の観点からなかなか賛成できないような考え方もある。市として国の政策の方向性が出た場合には、きちんと対応していかないといけないと考えている。【事務局】

○行政としては、国の政策方針に基づいて一定の方向転換をしていくのは、当然のことだと考えている。計画期間中に大きなことが決定されれば、書き込んでいく。【事務局】

○会議中ではあるが、時間の関係もあり、残りの部分は次回にご検討いただくということ対応をしてはどうか、今日初めて配った資料であり、かなりボリュームもある、お持ち帰りいただいて次回後半部分とあるいは前半部分に戻って、検討していただくような形としたい。【事務局】

■ちょうど半分ぐらいまできたので、後半部分は次回、ということでよろしくお願いします。全体を通して何かご意見は。【松本部長】

■第1章コミュニティの部分は、ストーリー性がないと分かりにくいのではないか。事例のようなものをコラム的に入れるとか、工夫をしないと読みづらいと思う。また、政策指標については、考え方を含めて全体的に見直してはどうか。目的を持つことによって指標も変わり、捉え方も違ってくる。どこにターゲットをおくのか、どこに力を入れていくのか、もう少しわかりやすい表現、工夫が必要かを感じる。【平石委員】

■具体的に把握できるような形を通して、全体を理解していくようなことか。【松本会長】

■イメージリーディングできるような工夫、細かいところを指摘せずに、役所ではこういうところで頑張ってくれる、というような読み取り方ができてくるのではないかと思う。【平石委員】

○行政というのは、幅広く様々なことをやっているのが実態なので、限られたスペースの中で詳細に書き込むことはなかなか難しい面がある。これからの行政は、市民が主役であるという原則の中で、市民の皆さんにできるだけ参加してもらい、行政と地域と市民、企業が一体となって自分たちのまちは自分たちで考えながらつくっていく。お互いの役割の中で、一定の責任を担っていこうというのが、これから目指すべき地方自治体の姿かと思う。ご意見を踏まえながら、工夫をしていきたと考える。【事務局】

○政策指標については、全体の検討の進行具合をはかりながら、再度検討をお願いしたいとも考えている。【事務局】

3 その他

今回は、3月18日の開催を予定している。